

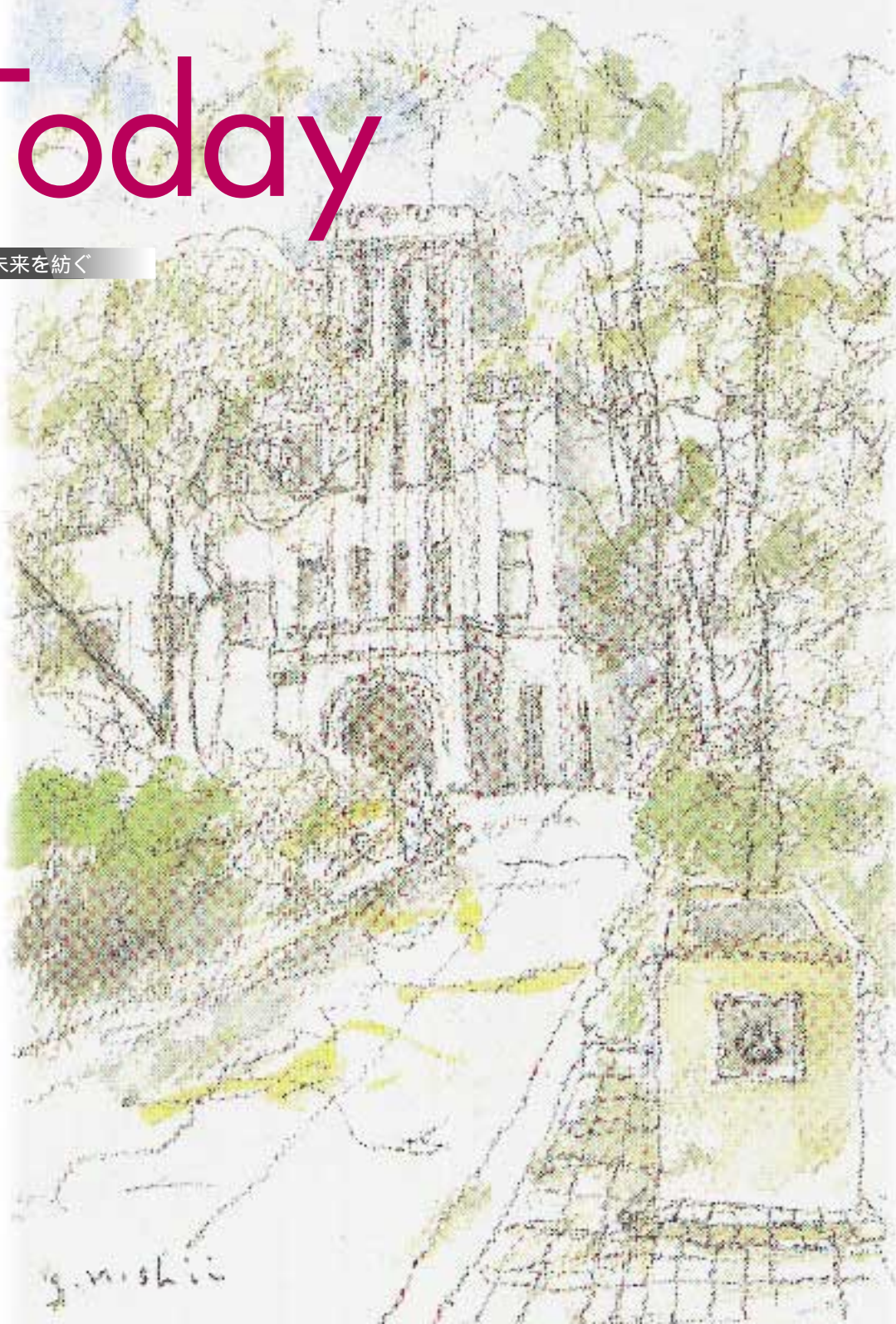
甲南Today

甲南ピープルのリレーションで、

未来を紡ぐ

No. 11
2002.10

NETWORK KONAN
 特集・つながるー KONANネットワーク
**甲南教育で培う、
 自分を発信していく力**
 Welcome! 誌上セミナー
**本音と建て前の壁が崩壊
 企業の採用姿勢が変わる!?**



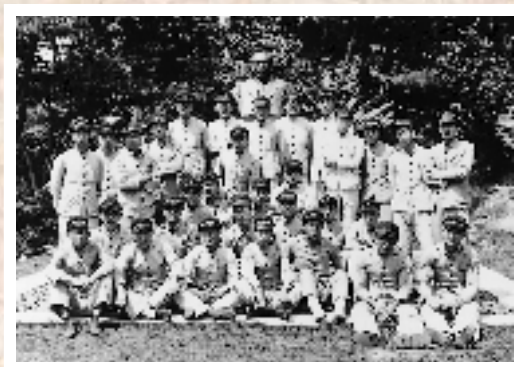
甲南Today No.11

2002年10月1日発行 [発行]甲南学園広報室 〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1 TEL.078-431-4341(代)

鳩杖

鳩杖とは、1号館1階学園史資料展示室にあるこの甲南学園の創立者豆生勉三郎先生が、1945年に枢密院顧問官の功績により賜ったものです。

「甲南生の弱いところやろ」／皆の意見は「競争に加わるのが苦手」／同じ目標や地位をめざしてライバルとしてのぎを削らない／弱いというより甲南の美学だった／ライバルがないからギスギスしなかった／「ライバル」という言葉は死語だった／学校も成績と席次を発表しない／クラスでも話題にならぬ／「おぬしやるな」という尊敬／「あいつには一目置く」という気持ち／面白い奴もユニークな道化にも光が当たって／かつての恩師も懐かしがられる／競争の代わりに独創に向かうのか／卒業生の自営業と学者と医者との率は旧制高校切ってだ／発明で有名な甲南カメラはその一例／科学者も目立つ／戦前から米国の大学教授が何人も出た／私のクラスからも出た／万舌(まんず)という／百舌(もず)の百倍しゃべるからだ／アダナもそんなユニークなのがウケた／この空気が本来の個性尊重ではないか／米国の友は今、そんな学校を廃止したのは占領政策の大間違いだ」と認める。



1952年(昭和27年)卒業アルバムより



中井久夫教授

文学部教授・神戸大学名誉教授・医学博士。昭和9年奈良県生まれ。甲南中学・甲南高校を経て昭和34年京都大学医学部卒。精神医学者として治療と研究に従事する。平成9年4月から文学部人間科学科教授。『精神医学の経験』全8巻他著。翻訳書は多岐にわたる。



インターネットで甲南へ
<http://www.konan-u.ac.jp>

WHAT'S NEW! KONAN

経済学部開設50周年記念講演会開催

イベル賞受賞経済学者 ロレンス・R・クライン博士を招き講演会
―Iで甦ったアメリカ、変わるか日本?―

ロースクールシンポジウム開催

2004年4月法科大学院ロースクール開設に向けて
2002年度甲南大学教育懇談会
学修、就職、留学などご父母の疑問を解消

5 NETWORK KONAN
【お母の-KONANスタイル-】

甲南教育で培う、
自分を発信する力

9 Welcome! 誌上ゼミナール

本音と建て前の壁が崩壊
企業の採用姿勢が変わる!?

11

甲南キャンパス徹底ガイド
甲南生まれの芸術家を
訪ねてみませんか?

甲南学園高等学校・中学校 貴志康一記念室/長谷川三郎記念ギャラリー

経済学部開設50周年記念講演会開催



甲友会館 2002年9月28日竣工

イベル賞受賞経済学者
ロレンス・R・クライン博士を招き講演会
―Iで甦ったアメリカ、変わるか日本?―

経済学部が1952年に開設されて、今年で50周年を迎えます。経済学部ではこれを記念して、連続講演会を開催します。その一環として、イベル賞受賞経済学者、米国立シルビア大学名誉教授ロレンス・R・クライン博士を招き、10月21日(月)記念講演会を行います。同講演会は

二部構成で、部のクライン博士の講演に引き続き、部では、部の議論をふまえてIが日本経済の不況脱出への処方箋となるか等をパネルディスカッション形式で議論します。参加ご希望の方は、甲南大学経済学部まで、はがき、ファックス078-435-2541、または電子メール(keizai50@center.konan-u.ac.jp)でお申し込みください。参加費は無料、同時通訳があります。

【日時・会場】

10月21日(月)午後1時~4時
甲友会館大ホール(学生会館西側)

【テーマ】

―Iで甦ったアメリカ、変わるか日本?―
【講師】ロレンス・R・クライン博士

ロースクールシンポジウム開催

2004年4月法科大学院(ロースクール)開設に向けて

2004年度開設予定のロースクールをより深くご理解いただくことを目的として、来る11月9日(土)シンポジウムを開催します。ロースクールには多様な学生に門戸を開くことが求められています。本学でも、法学部だけではなく、さまざまな学部出身者や社会人も学ぶことができるロースクールの開設準備を進めています。本学のシンポジウムでは、他大学とは趣向を変え、著名なエコノミストに講演を依頼。非法律系研究者の視点から司法制度改革・法科大学院についてパネルディスカッションを行っていただきます。参加は自由です。

日時・会場

11月9日(土)午後1時~5時 142講義室(1号館4F)

パネルディスカッション

激動する経済構造と司法制度改革の意義

パネリスト

猪木武徳氏(国際日本文化研究センター教授)

奥野正寛氏(東京大学大学院経済学研究科教授・司法制度改革推進本部法曹制度検討会メンバー)

香西 泰氏(日本経済研究センター会長)

諸石光昭氏(住友化学工業専務取締役・司法制度改革推進本部法曹養成検討会メンバー) ほか

表紙の絵



西井義晃 画「甲南大学1号館」

今回、西井さんの優しい筆致で描かれている白い建物は、甲南大学のシンボルである1号館です。前身の旧制高校創立時の大正12(1923)年に、高等学校では日本で初めてのコンクリート校舎として誕生。アーチ型の入り口を構えたモダンな外観、六甲の緑に映えるその姿から、「白亜城」と呼ばれ、親しまれてきました。しかし、戦争や水害を乗り越えたその歴史ある校舎も、阪神大震災の脅威には抗うことができず、1995年に取り壊されることに。現在の1号館は、1997年に、旧1号館をモデルとして復元されたものです。

西井義晃さんプロフィール

東京・大阪を中心に全国で個展活動。ヨーロッパ、中近東、中南米、モンゴルなど取材旅行33回
次のURLでも作品集をご覧ください
<http://webgarou.net>

世界をつなぐー
WORLD NET KONAN

遠い海外でなくいい
キャンパスで、異文化と出会う

甲南に留学するだけで、
世界の文化に触れられます

創立より、いまへ受け継ぐスピリット

クラブつながりレクレーション

50th Anniversary

体育会「ルネ」
文化会 KSWL

PICK UP 高中 TOPICS

甲南・灘定期親善試合

約50年間続く、学校同士の技の競い合い！
名物行事 灘甲戦

トピック 甲南学園だより

体育祭・文化祭も世界との交流の場
言葉の違いを超え、大いに盛り上がった
恒例イベントをレポート

第一線で活躍中の卒業生にアクセス!

IT'S KONAN STYLE

“自分の好きなこと”を、仕事にする

甲南フォーラム

2002年度甲南大学教育懇談会

学修、就職、留学など、
ご父母の疑問を解消

6月29日(土)、大
学在在校生のご父母に、
本学の教育理念や学
生の実際のキャンパス
ライフに対する認識
を深めていただくこ
とを目的に、2002
年度甲南大学教育懇
談会を行いました。



開催にあたっては、
まず、池上吉蔵理事長、吉沢英成学長より、完
成を目前に控えた甲友会館や新6号館、200
4年度から開設されるロースクールなど、甲南の
新しいムーブメントの紹介を含むご挨拶が行わ
れました。また、講演会では、ご父母に関心の高
い「就職戦線の動向」について、中田善啓就職部
長がわかりやすく解説。その後は、個別相談を
実施し、学修、就職、学生生活、留学について、担
当の教職員がご父母のさまざまな質問にお答
えしました。このほか、大学施設の見学会やク
ラブの発表、学生主体の活動「甲南21クリエイ
ティブプラン」の表彰などが行われました。
今後は、10月13日(日)に岡山での懇談会を予
定しております。

懇談会参加ご父母の声

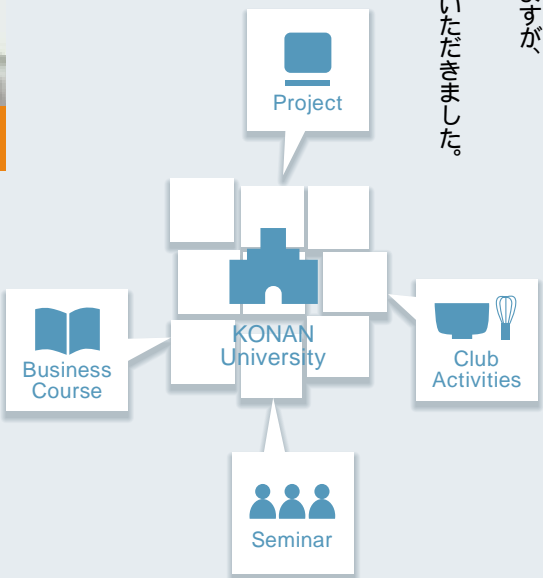
いまは就職が厳しくなっていますが
子どもと直接話す機会も少なく、
心配するばかり。今日は具体的な相
談が受けられたのが収穫でした。
(石上さんご夫妻、理学部 4年次)
入学したばかりなので、どんな勉
強をしているのかを確かめたくて来
ました。とくに語学教育が優れてい
ると聞いていますから、ちゃんと活用
して欲しいです。
(細江さんご夫妻、経営学部 1年次)



甲南教育で培う、 自分を発信していく力

専門知識や情報技術、外国語などを大学で学んできたにも関わらず、いざ社会に出てみると、そつした力を十分に発揮できない学生が多いと言います。大学教育の画一化がその一因であるという意見もみられますが、果たして甲南大学の場合はどうなのだろうか。

甲南大学の教育のあり方について、西村学長補佐にお話しいただきました。



詰め込むことが目的ではない 学びは自分を発信するためのもの

大学という独自の教育機関が、本来行うべき教育とは？

そもそも大学の教育とは、本質的にどついつしたものか考えてみましょう。小学校、中学校、高等学校、そして大学へと進学していく日本の教育システムに照らすと、一見、大学の学びとは高校の延長線上にある高等教育と位置づけられそうです。しかし、実は、それらとは根本となる考え方が大きく異なっています。

例えば、高校までは文部科学省が定めた学習指導要領により、日本全国ど



学長補佐
西村 順二 経営学部教授

の地域の学校でも、このカリキュラムを離れた学習はあり得ません。教科書は絶対的な規範なのです。しかし、大学では、決まった教科書がなく、例え講義名が同じであっても、教える教授が変われば内容も異なることがあります。これは、高校までの教育機関が、基本的には統一された教育内容を提供しているのに対し、大学は教授や助教など

が、自分自身の専門領域の研究に基づいた講義を行うことにより、広範囲にかつ、専門度の深い多様な知識や考え方を提供しようとする場だからです。

多様な視点で、柔軟に道を開く
それが、大学で身につけるべき
「自分を発信していく力」

大学生は、本来、このような決まり切った答えのない環境の中で、例えば、「1+1=2」という1つの解ではなく、「100.9852になる」といった別のプロセスを知り、「4+2も2になるんじゃないか」という自分なりの発想を拡げていくことが期待されています。1×2が2になるとは限らないと疑問を持ち、意見をぶつけてくることだって、あって然るべきです。

そして、このように多様な視点を身につけることは、学生が新たな学問の分野を開く研究に役立つというだけでなく、学生が自分らしく生きる力をも伸ばしてくれそうです。なぜなら、私たちの住む社会では、計画通りにいくことばかりではなく、想定外の出来事に遭遇し、予定を変更せざるを得ないことも多々あります。こつした状況において、物事がある決まった角度からしか

見ることでできない人は、おそらく、すぐに行き詰まってしまうことでしょうか。ところが、多様な視点を持つ人は、目的の地へと着くため、別の計画を設定し直して柔軟に解決し、自分を実現していくことができるというわけです。

甲南大学では、知識を伝える
だけでなく、実践の機会を充実

私たち甲南大学では、このような大学教育の本質的なあり方を深く見詰め、どつすれば学生が、より多様なものを見方、考え方を身につけ、自分自身を発信するために役立てられるかを考慮してきました。そして、その1つの答えとして強く意識しているのが、知識を伝えていくだけでなく、身につけた学生がそれを実際に活用する実践の場を豊富に設けていくことです。

経営学部で行っているOCA(オフ・キャンパス・アクティビティ)などは、その好例。インターンシップ、またはボランティアなどの社会に密着した活動に参加することで、学生は、いままで机上で学んできた知識が、ごく一面的なものであったことを実感として知ることができます。すると、次に大学に戻ってきてからの学びが、非常に多面的、立体的なものに発展していくわけです。

また、文学部の開講科目「日本語教授法実習(B)」では、日本語教員をめざす学生に対して海外の大学での教育実習の機会を設けています。今年度は20人の学生が参加し、台湾台中市にある東海大学で実習を行いました。このように海外の教育機関において外国人を対象に日本語を教えることによ

り、実践的な力を身につけるとともに、異文化に対する理解を深めていくことができます。

あるいは今年5月に自治会国際交流委員会が実施した「International Party」のように、甲南大生のイベント、大学近辺の店舗や近隣住民にも参加をお願いし、地域づくりに貢献するようなこともあります。

企業の採用担当者の中には、「大学の教育は役に立たない」と言い切る人もときにはいるそつですが、これは、大学本来の教育を忘れ、画一的な授業を展開する大学があまりに多いためではないでしょうか。インプットとアウトプットを等しく重視する環境のなか、自分を発信する力を身につけた甲南大生が、そつした大学に対する評価を覆す一翼を担ってくれることを願います。



甲南大生が育てた“自分を発信する力”

知識を身につけるだけでなく、活用する力まで育成する。
甲南教育がめざすこうした教育理念は、
学生に、実際どんな影響を与えているのでしょうか。
身につけた知識をもとに行動を起こした3人に、その答えを尋ねました。

Project
学生が開催! 社会人対象のパソコン教室

身につけたことが、誰かの役に立つ
それを知ったら、学ぶ意味が変わった

理学部経営理学科 4年次 桑原 知之さん
理学部経営理学科 4年次 武田 博史さん

いま、僕たちが取り組んでいるのは、地域の方々を対象にしたパソコン教室。学生が開講する。はじめての人のためのパソコンとインターネットの準備。これはパソコンを使ってみたいけれど、さっぱりわからないから敬遠しているという人を対象に、僕たち学生が、電源の入れ方から手取り足取りパソコンの使い方を初歩からお教えるというものです。なぜ、学生だけで社会人の方々に対象にした教室を開くことになったかと言えば、もともとこれは、経営理学科松井ゼミの活動の一環。去年の先輩たちのときにはじまり、今年も継続して行っている取り組みなんです。僕は去年、先輩方の下でその準備をお手伝いしてきたのがきっかけで今年、中心メンバーとして参加することになりました。

こういう言い方をすると、ゼミの決まり事だから仕方なく、参加しているよ



予測できない質問が飛び出すこともあり、日頃からの勉強が欠かせない。(上 / 武田さん、下 / 桑原さん)

▶教室で用いたオリジナルテキストは、夏休みも週に2・3度学校に集まって編集した努力の結晶。



に誤解されるかも知れませんが、確かに去年のパソコン教室の準備を振り返ってみると、とても楽しいものじゃなかった。僕は主に、テキスト作りを担当していたんですが、いくら丁寧に作っていても、松井先生に見ていただくと、「相手のことを考えて、もっとわかりやすく」と何度も書き直しを言い渡され、完璧と思えるテキストを用意して臨んだ当日は当日で受講生が押さなくていいボタンを押してしまつたなどの理由から、トラブルが続出。終わったときは、ホッとしたと同時に、もう来年はこんなことやりにたくないという気持ちが大きかったのは事実です。ただ、終了後に書いていただいたアンケートを見ると、「丁寧に教えてくださつたうれしかった」「次は、ぜひ、中級の教室を開いてください」などの言葉が次々に飛び込んできて、誰かに自分の理解している知識を伝えていくことは本当に大変なことだけれど、それだけの価値があると思うんですね。それから一年、今度は自分たちが中心となってこの教室を作り、開催する立場に立つたとき、大変なことはわかってはいたけど、不思議と逃げ出したい気持ちはありませんでした。それどころか、いまは去年のノウハウを生かして、もっとわかりやすくしたいと思うし、来年はもっといいものにして欲しいと思つたので、自分たちの取り組みの足跡をきちんと書き残すようにもしています。



近隣の小学生を集めてお茶会を開催

身につけたことを、試してみる
次の私は、そこから見えてきた



「どうしてお湯の隣に水を置いているの?」「お湯が熱くなり過ぎたり、減ってきたら水を足して、いつもおいしいお茶が点えられるようにしているんだよ」



最後は真ん中で、すっと抜く。「こうすれば、泡がきれいに盛り上がるでしょう」

文学部英語英米文学科
3年次 茶村 友香衣さん

お茶はどつして、だてる、と言つのか尋ねられたら答えられますか。実はこれ、私たち「茶華道料理部道心会」が近隣の小学生を集めて行っているお茶会で、実際に聞かれた質問の一つなんです。私の場合、高校生の頃からもう6年近くも茶道を習っているのに答えられなかったのでもう、たてる、と、たてて後で調べてみると、たてるというのはもともと中国でお茶のことを点茶と呼んでいたところから来ていて、『点てる』と書くのだとわかりました。小学生相手のお茶会だからと言って、何もかもこつちから相手に教えてあげるといっただけではないんですね。むしろ、彼らならではの自由な発想のおかげで、思いもよらない知識が身につくというところが結構あります。

私が大学で道心会に入って良かったと思うことの二つは、「このように発表の場、人と実際に触れ合う場が多いこと」です。高校のときのクラブは、1年に1・2回、それも文化祭などで発表する程度だったのですが、いまは平均して月に1回程度発表の機会があるので、その度に貴重な刺激を受けています。発表の場も、他大学と合同で大

規模なお茶会を開くことがあれば、地元、岡本商店街の桜祭りに参加させてもらうお茶会あり、部室に小学生を集めて行うアットホームなお茶会ありと、ホントにさまざま。例えば、近隣の大学や高校が集まって行うお茶会もあるのですが、ここではお茶をたてる方も、参加される方も厳しい目を持っていらっしゃるのでも、プレッシャーの中で本当の実力を試し、自信をつけていくことができます。また、先ほどの例のように、小学生相手のお茶会なら、自分自身が深く理解していなければ相手にわかりやすく伝えることなんてできませんから、それぞれに学ぶことがたくさんあるんです。

クラブ活動の中で、先生の指導を受けて学んでいくことももちろん大切ですが、自分が学んだことを発揮して実践していく中でさらに磨かれていくものだと実感しています。また、茶道の世界は奥が深いので、どこまで追求していくことができるかはわかりませんが、お茶という世界を軸に自分自身を成長させていきたいと思っています。

茶華道料理部道心会では、茶道・華道・料理の3部門からなるクラブ。現在は60名の部員が在籍しており、それぞれの部門に分かれて積極的な活動しています。



学生生活を終え、一度、社会のフィールドに立つてこそ、知識を蓄えるだけでなく、活用する力がいかに大切かが実感できるもの。「知識の運用をともなった、生きた学問を学びたい」と考える社会人に機会を提供することも、甲南教育の一つの形にほかなりません。



公開講座受講から始まった、2度目の大学生活

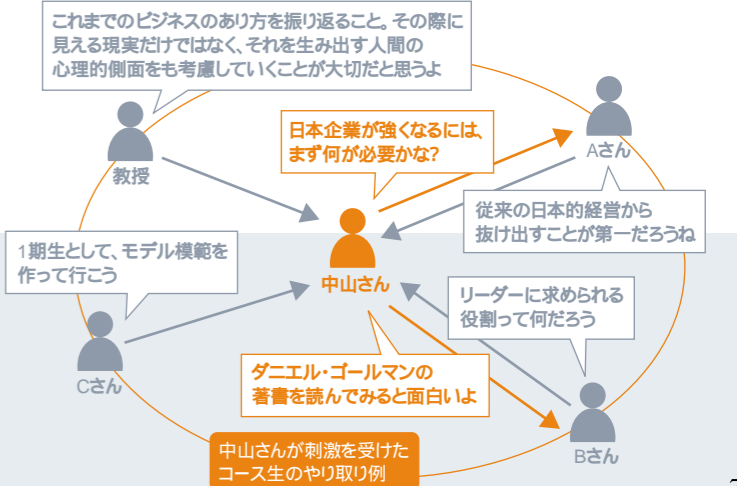
業界も、年齢も違う人たちに学ぶのは、本では得られない生きた知識です

経営学専攻修士課程ビジネスコース(夜間主) 1年次 中山 敬滋さん

私は甲南大学の経済学部を卒業して20年以上も間、母校で行われている社会人向けの講座に積極的に参加してきました。ここだけの話、学生の頃はそれほど勉強熱心でもなかったんですが、社会人として働き始めると、自分の活動のために学びたいという目的意識が、年々強くなってきたんです。しかも、バブルの崩壊以後は、社会の状況が非常に不安定になり、先が読めなくなってきたでしょう。ここで私の欲求はもう一つ強くなります。公開講座で得られる知識も確かに貴重なものですが、自分の今後を見極めていくために、できれば継続して経済・経営分野の専門教育を受けたいという思いが募りました。

経営学専攻修士課程ビジネスコース(夜間主)のことを知ったのはそんなとき。このコースは、社会人が対象で、卒業すると修士(経営学)の学位が授与されます。普段の仕事しながらの受講とあって、満足のいく成果が得られるかどうかには自信がありませんでしたが、ちょうど専門性のある教育に関心を持っていてたときでしたから、思い切って受験に挑戦し、何とか入学できました。

入学していき受講してみると、まず参加者のモチベーションの高さに驚きました。私以外に7人がビジネスコースに入學しており、誰もが普段はそれぞれの職場で働いているにも関わらず、毎回テーマに対して綿密な調査を行ってきて、発表や議論を行うわけです。当初は勉強する時間がないのではと危惧していた私も、こうした周りの雰囲気のおかげ、気がつけば、仕事の合間を利用して、あ



大人になってから勉強しようと思っても、応えてくれる場は少ない。ビジネスコースの価値は計り知れないという。



Seminar 教育者としてのキャリアアップをめざす社会人編入

子どもの成長を、どう見守ればいいのか 現場で役立つ応用哲学と環境教育を学んでいます

文学部人間科学科(社会人編入) 3年次 楠 てるみさん

いまは現役学生に混じって谷口教授のゼミで学んでいる私ですが、実は、7年間も中学校の教員として働いてきた経緯があります。なぜもう一度学生をしているかというと、私の勤めていた教育現場では、「この数年で心の問題を抱える生徒が明らかに増加していたんです。それで私は、これは教師自身が学ばず、今までのやり方を続けていると何も解決できないんじゃないか」と考えるようになりました。もう一度大学で心理学について学ばうと決めたのはそれからすぐです。

甲南大学で社会人向けの編入学制度が設けられていることを知り、谷口教授のゼミに出会えたことは、私にとって多くの幸運でした。というのも、当時の私は、子どもの心の問題を解決するのに役立つのは臨床心理学を学ぶことではないかと考えていたのです。ところが谷口教授が重視しておられたのは、自然に触れながら心を育てること。教授の言葉を借りれば、「心のあり方は周辺の環境と大きく影響し合う。心の問題の解決を考えるならば、自己関係

だけに注目するのではなく、心を形成する家庭環境、社会環境、自然環境まで考え、一度健全な心とは何かを広く見つめ直してみるべきだ」というのです。そして教授は、「健全な心が健全な環境を作るし、逆に、健全な環境作りから健全な心を導いていくこともできる」という考えから環境教育を重視されておられます。例えば、自分たちで水辺の環境を築き、自然環境の回復を観察する「ボート作り」やゼミ生以外の甲南大生あるいは世代間を越え、甲南小・中・高校生も含めて行なう農作物作りなどを実践しておられました。

最初は、こんなことが本心に心に関わりがあるのだろうかかと半信半疑だったんです。ところが実際にやってみると自分が手間をかけた分だけ農作物が美しく育つという実感は何か忘れていた



キュウリのネットを張る楠さん。農作業で、体はくたくたになるけれど、心はとてもリラックスできるとか。



フライパンがなければスコップで……。こんな風に焼いた野菜は、なぜか余計においしい。

ものを呼び起こしてくれました。それはつまり、健全な発達段階を踏まえた身体が豊かな心を育むということでした。例えば、トマトが嫌いな小学生が、自分の作ったトマトを、美味しいといいながら食べる姿を見たり、一見農作業なんてと敬遠しそうな大学生が、驚くほど責任感を持って、率先して働いている姿を見ると、自分の求める教育の姿が少し見えた気がしました。

やっぱり、人間って自然の一部なんです。だからこそ自然に還る体験が健全な心を育てられるんだと思います。卒業後は、「ここで自ら体験したことを、子どもたちや、父母の方々にも伝えていきたいと思っています。」

教授はこの人！



庭本ゼミDATA

所属学生数 / 22名(4年次)

主な研究テーマ

- 経営組織におけるサブリーダーの役割
- 経営とリーダーシップ
- ゴミ問題とリサイクル
- 製紙会社の技術と経営
- リーダーシップの
- 日米欧の比較研究
- 日本プロサッカーチームにおける組織とマネジメント

経営組織論を通して、生きる知恵を学ぶ
それは、社会に出ても必ず役立ちます



教授からのメッセージ

私たち現代人は、好むと好まざるとに関わらず、みんな何らかの「組織」に属しています。芸術家であれ修行僧であれ、完全に社会から隔離して生きていくことはできません。そういった「生きる場」としての組織まで含めて考えていくのが「経営組織論」であり、その知識を身につけることは、他者とうまく共存しながら自分を生かすためのスキルの修得。つまり生きる知恵を学ぶことにほかならないのです。ただ、そんな大きなテーマをわずか90分の授業ではなかなか伝えきれません。だからウチのゼミでは、合宿が多い。春、夏、秋と年に3回、寝起きを共にすることでざっくばらんにいろんな話ができますし、他大学との討論大会とも言える合同合宿では、普段コミュニケーションのない相手に、いかに自分たちの考えを伝えるか真剣になります。ゼミ生たちには、こうした体験を通して、机上だけにとどまらない学問を学び取って欲しい。このようにウチのゼミはイベントや課題が多いのでとにかく忙しいけれど、その代わりに、目標を持って努力する限り、大きく成長できることを保証しますよ。

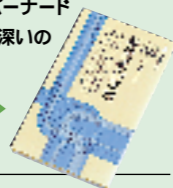
ゼミ生の証言

経営者たる者かくあるべきか
理想のリーダー像を探る



優秀なリーダーとは、どんな人物か。私はリーダーシップを分析し、卒論を書こうと思っているのですが、最初、そのテーマを選んだときは、売上高の推移など、さまざまな数値から研究を進めるつもりでした。ところが庭本先生に相談すると、「これからの組織は人が中心。外部や部下とのコミュニケーション能力など、数値で表されない部分についても調査しなければ、本当のリーダー像は見えないよ」と別の視点をご指摘いただいて。自分の考えが浅かったことに気づいただけでなく、テーマを研究していくおもしろさをますます感じるようになりました。そもそも庭本先生といえば、「経営者の役割」の著者、バーナードの権威。リーダーシップについても知識が深いので、とても頼れる存在です。

ゼミの課題として読んだ「経営者の役割」。
あまりに難しくほとんど理解できなかったが、
卒論テーマの選択は、この本の影響かも。



右ノゼミの雰囲気はいつも賑やか、その日の発表に対して自由な意見が上がり、激しい討論になることもあれば、ユニークな見解が起ることも。左ノ最後には庭本先生が学生の発表を補い、さらに鋭い洞察力でテーマの核心や問題点を追究。学生たちはまた新たな知識を深めていく。



Seminar Theme

組織をめぐる諸問題

経営学部経営学科
庭本 佳和 教授

経営組織論をはじめ、経営全般の諸問題について理論的視点から考察。教授自身は、近代組織論を唱えたバーナードの研究者として広く知られ、バーナードの著「経営者の役割」はゼミ生の必読書。



ようこそ！知のテーマパークへ

Welcome!
誌上ゼミナール

本音と建て前の壁が崩壊 企業の採用姿勢が変わる!?

「就職希望者にプラス面だけ見せる」
日本企業の常識は覆るのか

庭本ゼミは、毎回、2人の学生が自分の選んだ独自の研究テーマについて発表を行い、全員で意見を交換して、それをさらに深めていくというスタイル。この日は、「いま変わりつつある企業の採用」、「環境問題とリサイクル」という2つのテーマについて発表と議論が行われたが、全員がすでに就職活動を体験した4年次生だけに、企業の採用姿勢についてはとくに白熱したディベートが行われた。その口火を切ったある学生の発表とは、「ただ、「失業率が過去最高の5・2%となるなど、いま私たちの就職は年々厳しさを増しています。その反面、もっとも思いつく就職したにも関わらず、新入社員の3割がわずか3年以内で辞めてしまふ」というおかしな現状があります。これは一般的に「最近の若者は…」と月並みに精神論で批判されがちですが、本当に私たちの意識だけの問題なのでしょうか。これに対し、実は欧米などでは早くから社員がすぐに辞めるのは、企業側にも問題がある」として改善の取り組みが行われており、「RJR Realistic Job Preview」現実主義的な仕事情報の事前提供という考え方が定着しつつあります。つまり、企業は人材を募るとき、いいイメージだけでなくその業務のつらい面も含めてしっかりと現実を伝えるべきだということです」。

確かに、日本ではこれまで、会社のよい面だけを見せるのが一般的とされてきた。雇われた側が、「こんなはずではなかった」と、理想と現実のギャップを感じ、仕事から離れていってしまうものもある

意味、仕方のないことだったかも知れない。

この学生は、実際のデータを挙げてさらに続ける。「RJRを実施したアメリカの某電話会社などでは、社員の定着率の向上が見られるなど実際に成果が確認されており、このため積極的な取り組みが行われています。しかし、日本ではまだ言葉さえ知られていません。私が見たさまざまな企業の入社案内も、一律にプラス面ばかりを強調したものでしかありませんでした」

ここでゼミ生は、待ちかねたように口々に意見を言い合ったが、その大半は報告者と同意見。自分の体験を振り返ってみても、日本企業はプラス面しか伝えない傾向があると批判するものだった。しかし、ある学生の発言で、RJR賛成を並べ立てていた学生たちは声を失ってしまふ。

「僕の友達はある大手メーカーの面接でこう言われたらしいんです。『うちが初任給28万円。でも、1日21時間労働になりますよ』って。これは確かに、いい面も悪い面も伝えてる進んだ企業ですよ。でも、みんなは本当にそんな事実を突きつけられても、この企業で働きたいと思っつ」。

経営者の視点を身につければ、 企業の本当の姿が見抜ける

ひとつひとつの意見に無言でうなずきながら聞いていた庭本教授は、「ここでゆくり口を開いた。『確かに、1日21時間労働というのはひどい話ですよ。そんな現状を正直に伝えれば、定着率が向上するところか、ます動めよふと思っ人はいいと思います。RJRで、どうなんだろな』と思わ

ざるを得ませんよ。しかし、ちやうど視点を変えて考えてみてください。その企業は日本を代表する国際企業ですよ。本当に21時間労働がまかり通っていると思えますか。これはRJRというより、あなた方にどれだけそこで働く気があるのか、あるいは無理を言われたとき、どう対処するのかを試しているように思えます。では、なぜ「見こんむちやな面接を企業が行うのか。それは、企業がいい人材を見分けて、確保するためにそれだけ必死になっているということですよ。激しいグロバ

ル競争の中で企業が生き残るには、緊急事態にも対処できる優秀な人材が必要です。その方法を模索している段階かも知れませんが、そう考えれば、

さつき君たちは日本の企業はRJRに対して意識が低いと現状ばかり話し合っていたけれど、それだけでなく、これからは人事制度の刷新が進み、新しい採用方法が急速に広まっていくのではないかと、い予測も立つのではないだろうか」

自分の立場から意見を言い合うことは大切だが、企業側の立場に立つて考えることができれば、21時間労働の現実も、RJRの今後の展開も見えてくると庭本教授は言う。こうした授業を見る限り、経営視点とは、何もビジネスを行うために必要というだけでなく、生きるためにこそ必要な視点なのかも知れない。



甲南生まれの芸術家を訪ねてみませんか?

自由闊達な学風で個性を伸ばす教育を行ってきた甲南学園には芸術の才能を発揮した卒業生も多く、特に大きな功績を残した人物についてはその作品や資料を収集し、多くの方々に「ご覧いただいています。今回は、甲南高等学校・中学校に設けられた貴志康一記念室と長谷川三郎記念ギャラリーを、生徒たちに紹介してもらいました。

貴志康一記念室

甲南高等学校・中学校

いま、再び注目される天才音楽家を偲ぶ

雑誌「音楽の友」における、あなたの好きな日本人作曲家は?というランキング調査によれば、年々得票数をのばし、人気を獲得しつつある貴志康一。ヴァイオリニストとして作曲家として、また指揮者として、世界に通じる才能を開花しながら、早々とこの世を去ったため、「天折の天才」と言われています。その貴志康一が、いま再び注目を浴びつつあるのは、NHKテレビ「名曲アルバム」や東欧のオーケストラの指揮者としても有名な小松一彦氏が貴志作品の演奏やCD化などを手掛けられたことに多くを負っています。甲南学園では、甲南小学校、中学校、高等学校の出身である貴志康一の偉業を称え、高・中に「貴志康一記念室」を設置し、「遺族から譲り受けた、自筆の譜面を含む楽譜レコード、書籍、雑誌などの資料を、豊富に所蔵しています。生徒はもちろん、広く一般の方にもご覧いただけます。



貴志 康一 KISHI, Kōichi
1909 ~ 1937
甲南で学んだ天才の音楽家で日本のクラシック音楽の草分け的存在。スイス、ドイツへ留学。ベルリンフィルで指揮。「月」「竹取物語」「かごかき」など多くの作品を残し、28歳の若さで没した。

世界的に有名と聞いていますが、具体的にはどんな活躍をしていたの?
中2 福田 龍之介君

国内外を問わない、広く華々しい活躍に触れる

若くしてヨーロッパで研鑽を積み、ヴァイオリニストとして活躍したばかりでなく、作曲・映画制作にも取り組みました。1934年には、ベルリンフィルを指揮して自作自演する栄誉も得ました。貴志作曲の交響



曲「仏陀」、「日本組曲」などは、今日海外のオーケストラにもしばしば演奏されています。また、貴志没後の1949年、ストックホルムで行われた湯川秀樹博士ノーベル賞受賞の折、その祝賀会で貴志作品のヴァイオリン曲「竹取物語」が奏されたというエピソードも、彼の音楽の世界的な評価を表していると言えるでしょう。

遺族の方から、丸ごと譲り受けたコレクションは貴重なものばかり。ぜひ一度ご覧ください。

貴志康一記念室
竹田 真理子さん

貴志康一さんの曲をいつでも聴けたらいいのに。
中2 鈴木 太士君

明るい旋律と悲しい旋律の繰り返しに、独自のメロディにも触れてください。
音楽担当 石川 保則先生

(楽譜は大学生協の書籍部、CDは高・中事務室で販売)。日本の旋律が見事に生かされており、演奏家の方が音にしてみれば、日本にこんな人がいたのかと驚く。貴志康一の曲にぜひ触れてみてください。

50年以上昔の作品なのに、古さを感じない。そこが魅力の一つ。

美術担当 角 典久先生



実際に足をお運びください。長谷川三郎画伯の作品を丁寧に紹介します。

長谷川三郎記念ギャラリー
森田 啓子さん



長谷川 三郎 HASEGAWA, Saburo 1906 ~ 1957
甲南が生んだ画壇の巨匠。小出楯重画伯に師事して画家を志しフランス、イタリアに留学、ピカソに刺激を受けてモダンアートの道に。51歳でサンフランシスコにおいて客死。

長谷川三郎記念ギャラリー

甲南高等学校・中学校

日本抽象芸術を開いた作品を約80点収蔵

日本における抽象絵画の草分け的存在として知られる長谷川三郎も、甲南小学校から中学、高校へと進学した甲南OBの一人です。彼は、中学・高校の頃から画家となることを決意し、創作活動を開始。以来、東京帝国大学美術史科を経て、渡米・滞欧中の1930年にはサロン・ドートンヌ展フランスに作品を入選させるなど、若くして世界的な画家としての地位を確立していきました。甲南学園では彼が病に倒れるまでに遺した作品約260点のうち、長谷川三郎自身や家族から譲り受けた約80点を、長谷川三郎記念ギャラリーを設けて保管。この施設は、一流の作品に触れる機会として美術の授業に用いられるほか、一般にも広く開放しています。

一生を投じた、故人の挑戦の足跡を一望

大阪信濃橋洋画研究所に通い、小出楯重に師事した高校時代、抽象の影響を受けた滞欧時代、そして水壘、拓本などが多く見られる晩年、アメリカで亡くなるまで、長谷川三郎は、マテリアルにとらわれることなく芸術の可能性に挑戦し続けました。長谷川の作品には、新しいものの美点を見つけ取り入れるが、以前の美点を忘れず、という信念に基づいて、日本人の精神的な部分を表現しながら西洋の美術との融合を模索し続けた創作意欲を読みとることが出来ます。長谷川三郎の作品は国内だけでなく海外の多くの美術館に収蔵されていますが、初期から晩年までを一覧できるのは甲南ならではです。



「自然」1953年 (49.0x32.0 / 木版・紙)
「鳥」1932年 (98.0x71.0 / 油・布)

楽譜やCDで、曲に触れる機会を提供

楽譜「貴志康一作品集」の出版、貴志作品のCD化、演奏会の立案などにより、本記念室では、できるだけ多くの方に、身近に貴志康一の音楽に触れていただくための活動を行っています

直筆の評論文など、絵画以外の資料も保管

長谷川三郎は、活動範囲を創作だけに留めず、日本にヨーロッパの抽象芸術を紹介すると共に、アメリカには日本の文化を紹介する等、芸術面で東西の橋渡し役としても大きな功績を残しました。具体的には出版物として著書「アート」、新しい絵を見る手引き」などを著し、美術雑誌では評論を多く手掛けています。本ギャラリーでは、こうした出版物のほか、貴重な長谷川三郎直筆の評論文なども多数保管しています。

絵を描く以外にも、いろいろ活動されていたと聞きました。
高3 池谷 聖二君(右)
高3 勝部 洵一郎君(左)

皆さまのご訪問をお待ちしております!

【開館日】貴志康一記念室：毎週火・金
長谷川三郎記念ギャラリー：毎週水金
【開館時間】10時～16時
【利用について】必ず、事前のお届けが必要です。左記の番号よりお申し込みください。また、夏期および冬期には休館期間を設けておりますのでご確認ください。
TEL 0797-31-0551(代)
FAX 0797-31-7458

遠い海外でなくていい キャンパスで、異文化と出会う

岡本キャンパスを軸に、地域に
広がる甲南のグローバルネットワーク

国際交流と言えば、一般的に、日本を離れ、世界各国へ赴いて行うことと思われがちです。もちろん価値観の異なる地域に飛び込む過程では、何にも代え難い貴重な体験が得られるに違いありませんが、もともと身近で、簡単に世界と触れ合うことはできないのでしょうか。

甲南大学では、学生の海外留学を支援する一方で、海外の大学からの留学生の受け入れを積極的に実施。学生が遠い海外へ出向かなくとも、キャンパス内でさまざまな文化を持つ人と語り合い、交流を深められる環境を設けています。しかも、その交流の場は甲南大生だけのものではありません。ホストファミリーとしての受け入れや、学生自治会が運営するIEC(国際交流委員会)による甲南大学と留学生を交えた地域の交流イベントなどによって、岡本キャンパスを中心とした地域の国際交流にも大きく貢献するものとなっています。

提携大学の教授に聞く

甲南キャンパスの国際交流



国際交流の進む甲南と提携
貴重な体験を分かち合う

私たちが甲南大学と提携を結び、学生を派遣するようになったのは、いまから14年ほど前のことになりました。当時、なぜいくつもある海外の大学の中から甲南大を選んだかという点、ひとえに留学生の受け入れに対する姿勢がほかより進んでいたからです。例えば、留学生の交流のために、「あじさいルーム」という非常に広いスペースが用意されていたり、熱心なスタッフが揃っていたり、すでに留学していた海外の学生は、ここで実際に生き生きと過ごしていました。これを目の当たりにしたとき、私は提携を結ぶならこの大学しかないと思ったんです。

実際、そのときからいまままで、私自身引率者として何度も甲南大学を訪れていますが、やはりあのときの判断は正しいと思います。こうした部分からも交流が活発化しているのではないのでしょうか。そのうえ、甲南にはハワイ大だけではなく、7カ国から学生が集まるというメリットがあります。ここに来るだけで世界の文化に触れられるのは学生にとって大変意味のある体験となるに違いありません。そして当然ながら、このようなキャン

かただと思います。近年では、6週間の日本語集中プログラムを追加するなど、制度の拡大にも意欲的に応じていただいていますし、「あじさいルーム」では、お昼になると甲南の学生がウチの学生とランチを食べようと、待ちかまえている姿が見られます。せっかく海外の大学にきているのだから、とどんどん学生同士で交流して欲しいと願う私にとって、これは何よりうれしい光景ですね。授業の中でも、茶華道料理部道心会の先生と学生から生け花を習ったり、キャンパスで見かけた誰かに自己紹介をしてもらうといった課題を与えるなどしていますから、

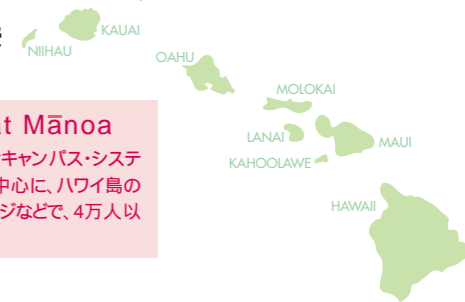
バスの雰囲気は、私たちハワイ大側だけでなく、甲南の学生にとっても間違いなくプラスでしょう。海外体験も確かに貴重ですが、普段のキャンパスの中に、海外のことを知ったり、外国の友人を作る機会があふれているわけですから、ぜひ積極的に生かし、お互いに貴重な体験として欲しいですね。

甲南に留学するだけで、 世界の文化に触れられます

ハワイ大学 ロバート・ヒューイ教授
専攻は「東アジアの言語と文学」

University of Hawai'i at Mānoa

ハワイ州を支える高等教育機関で複合キャンパス・システムを有する。オアフ島にあるマノア校を中心に、ハワイ島のヒロ校、その他7校のコミュニティカレッジなどで、4万人以上の学生が学んでいる。



本気で叱って、一緒に楽しんで 留学生は、家族のひとりです

13年前、初めて留学生を受け入れたときのこと。お彼岸のお墓参り中に突然夫が倒れてしまい、入院することになったんですが、そのとき、出合っ間もない留学生が毎日病院に足を運ぶなど、とても献身的に看病してくれたんですよ。私たちが留学生を本当の家族として迎え入れるようになったのはそれからです。いまでは、私たちホストファミリーと留学生はもちろん、お互いの家族同士で交流が深まるケースもありますね。今年、お世話している留学生もすでに家族同然の仲。本気で叱ることも、意見を言い合うこともしばしばですし、悩みを相談してくれることもあります。だから、京都のお寺巡りや温泉旅行に行っても、まるで家族旅行のように楽しめます。将来、いままでお世話した留学生たちの家族みんなで集まることができたら...きっと素敵でしょうね。

ホストファミリーに聞く、
甲南から広がる国際交流

ホストファミリー 大利さんご家族
留学生 Chen Shu Zongさん(中央)/ハワイ大学(アメリカ)



留学生からひとこと

道に迷うことも、ひとつの楽しさでした

日本では道に迷うことも多かったですけど、知らない場所には、また新しい発見があってワクワク。家族のように接してくれるホストファミリーの皆さんをはじめ、留学生同士や甲南大生との交流も忘れられない経験になりました。

相手を思いやる気持ち その大切さに気づきました

子どもの教育にもプラスになるだろうと思ったのが、今回、初めてホストファミリーに応募したきっかけ。しかし、いざ受け入れが決まり、留学生の写真を目にしたときは、彼女の背の高い容姿に驚き、来日が近づくにつれ、緊張し、オロオロするばかりでした。まずはプライバシーが必要だと、新たに部屋に仕切扉を取り付けたほどですよ。ところが実際に迎え入れてみると、英会話が苦手でも、身振り手振りで悪戦苦闘しながらなんとかコミュニケーションできるもの。次第に彼女の趣味や興味について話そうとなり、週末にはどこに連れていってあげれば喜んでくれるかが家族の話題の中心になりました。振り返ってみると、これまでは家族以外の人に対して、どうすれば相手のためになるかを考える機会なんてなかなかありませんでしたから、これを機に、人を思いやる気持ちの大切さも気づいたように思います。

ホストファミリー 来司さんご家族
留学生 Carolina Potockiさん(中央)/カールトン大学(カナダ)



留学生からひとこと

つぎは家族みんなで、日本に訪れたい

忍者と空手が好きな日本ファンの私。最初はほとんど話せなかった日本語も、6週間のホームステイを通してかなり上達しました。今度は、カナダの家族みんなに大好きな日本を案内したいです。

創立より、いまへ受け継ぐスピリッツ
50th Anniversary
 クラブつながりレーション

文化会 **KSWL**



昭和36(1961)年 / アナウンサーとして女性部員が登場。



昭和27(1952)年 / 全国ではじめての学生によるテレビ受信機製作(朝日新聞)。

自由な発想、好奇心、そして行動力...
 受け継がれるKSWLマインド

取材に出席された方：甲斐卓雄さん(1964年経卒)、河野高慶さん(1967年理卒)、北村多平さん(1969年理卒)、大槻郁夫さん(1974年経卒)、山本雅則さん(1976年営卒)、学生 神澤真理さん(会長/経3)、植良啓さん(理3)、萩原隆幸さん(理3)

- 【創部】昭和27(1952)年
 【部員数】80人(2002年7月現在)
 【主な実績】
- 1930 旧制 KSWL(甲南高校短波長無線連盟)発足
 - 1952 甲南大学無線工学研究会(KSWL)設立 / 学生として、全国ではじめてテレビ受信機を製作完成
 - 1954 全国初の学園無線局JA3KS開局
 - 1958 KSWLを正式の名称にする / 完全ステレオ録音機を製作し、音楽祭を録音して文化祭で再生
 - 1960 初の女性部員誕生 / 学内放送機材、テレビ機材の製作 / カラーテレビ、アナログコンピュータの研究に着手 / 藤沢麗子リサイクルを開催
 - 1961 学友会館をエリアに学内放送を開始
 - 1962 OB会設立
 - 1963 現役・OB共通の機関誌「KSWL」No.1発行
 - 1964 デュクエイセイリサイトを開催
 - 1965 アマチュア無線のオールJ.Aコンテストでクラブ局部門で全国2位
 - 1967 摂津祭でテレビ特別番組無線送信・岡本駅前公開受信
 - 1970 第1回放送祭(現・番組発表会)
 - 1977 マイクロコンピュータを研究対象に加える
 - 1983 技術部門研究発表会をはじめ
 - 1987 摂津祭で第1回 New Age Festival
 - 1995 「KSWL」誌・震災臨時号(安否情報)を発行
 - 1999 OBのメーリングリストを開設
 - 現在 日常の学内放送に加えて、番組発表会、摂津祭のNew Age Festival、技術部門研究発表会を定期的に開催

確かに活動を見ると無線を超え幅広い。現在KSWLには放送、技術の2部門がある。放送部門の主な活動は学内放送番組制作し、月曜から金曜の昼休みと夕方に放送する。アナウンサー、ミキサー、プロデューサーの3班からなる。技術部門はパソコンを使いソフトウェアやゲームをプログラムするソフト班と、電子工作を通じてロボットや電子オルガンなどを制作するハード班に分かれている。女子アナもいれば、ロボット博士もいるという不思議なクラブだが、その自由な発想と「エトワ」はクラブの足跡をたどるとさらに実感できる。

例えば、学生で初めてTV受信機を作った、公開実験したときのこと。この実験のためにNHKがわざわざ昼の放送を行い、新聞に大きく取り上げられるほどのニュースになりました。それから、タレントの女王とかわれた藤沢麗子さんのリサイクルを企画した



例えは、学生で初めてTV受信機を作った、公開実験したときのこと。この実験のためにNHKがわざわざ昼の放送を行い、新聞に大きく取り上げられるほどのニュースになりました。それから、タレントの女王とかわれた藤沢麗子さんのリサイクルを企画した

現役学生とOB会の協力によりつくられる機関誌「KSWL」(左より)創刊号、震災特別号、最新号(2002年7月現在)。



50周年記念パーティの現役紹介。OBの集い『甲南緑友会』は、記念祝賀会や記念誌の発行を行っている。また、このうち、有志が『現役支援会』として、さらに経済面、技術面で現役生をバックアップ。



長谷川三郎制作のゴルフ部ロゴマーク。

全日本学生ゴルフの黎明期を担ったスピリットは、いまでも健在!

取材に出席された方：坂野伯夫さん(1960年経卒)、山下真一さん(1970年営卒)、吉田正治さん(1987年営卒)、学生 平松賢資さん(主将/経4)、鎌谷勇宏さん(理3)

およそ聞き慣れない名前だが、KSWLは甲南の伝統あるクラブの一つ。創立時は「無線工学研究会」といい、昭和33年にKonan Short Wave Leagueの頭文字をとってKSWLに改称した。しかし、当時を知るOBは、「決して無線や短波にこだわったのではないことを強調する。むしろ、TVやパソコンなどの新技術を取り取り、自由な発想で楽しむのがコンセプト。KSWLとしているのは創立時の伝統を残すため」なのだ。

全日本学生ゴルフ初期の個人戦、団体戦の戦績を調べて、思わず目を見張った。選手権の覇者として、個人の部では後に日本アマチュアゴルフ選手権最多6度の優勝を果たした中部銀次郎をはじめ甲南大生の名が連なり、団体戦信夫杯、第10回までに3連覇2度を含む7度も優勝が刻まれているのだ。甲南ゴルフ部の歴史は、そのまま国内学生ゴルフの歴史と書いていいかも知れない。昭和35年卒坂野さんOB会事務局長は当時をこう語る。「あの頃は、ゴルフと言えは甲南、なぜか強かった。またゴルフは重役のスポートという感覚だった。ボールが高く貴重品だったし、部員数が増えて練習場を確保するのに、あちこち走り回ったりと苦労も多かった。甲南はエテケットルに厳しく、学生らしく誇りが誇りでした。昭和45年卒山下さんも続けて、「試合に臨むときは、甲南だから負けられない」という気持ちが強かった。いつも、栄えある歴史に背中を押され、勝ってきたという感じ」と、輝かしい時代を懐かしむ。

このエピソードから16年現役ゴルフ部は、いままだ、低迷の時期を抜け、2部から1部への復帰を遂げて全国大会出場を果たした。と、ただけ時間が流れても、どんなに苦境に立たされても、甲南大ゴルフ部のスピリットは変わらず受け継がれている。現役学生に言葉を探ると、力強く一言、「多くの先輩方が、卒業後も僕らを見守っていてくださいます。その期待に応える意味でも、次は絶対全国大会でいい成績を残したい」。今後のゴルフ部の活躍に注目したい。



◀ゴルフ部2期生(1956年卒)

創立より、いまへ受け継ぐスピリッツ
50th Anniversary
 クラブつながりレーション

体育会 **ゴルフ部**



【創部】昭和27年(1952年)
 【部員数】26人(2002年7月現在)
 【主な実績】

- 1952 ゴルフ同好の志が集いゴルフ部を設立
- 1953 関西学生ゴルフ連盟に加盟 / インドア練習場設置 / 学友会所属の運動部となる / 糸岡俊雄、春季関西学生に優勝
- 1954 第一回関西学生リーグ戦優勝、以降四連覇 / 慶応大と定期戦を結ぶ
- 1955 石本喜義、関西、全日本、朝日杯に優勝し、学生個人戦タイトルを独占 / 第一回信夫杯大学対抗戦優勝 / 第一回関西学生ゴールドメダル(団体戦)に優勝、以降三連覇
- 1956 石本喜義、関西学生を連覇
- 1957 大橋一元、第一回成宮杯、関西、全日本、朝日杯に優勝し学生個人戦タイトルを独占 / 学習院、早大と定期戦を結ぶ
- 1958 猪原一雄、成宮杯と全日本学生に優勝 / 信夫杯大学対抗戦優勝、以降三連覇
- 1959 乾英文、関西学生優勝 / 関西学生リーグ戦優勝、以降九連覇
- 1960 関西学生ゴールドメダル優勝、以降六連覇
- 1962 吉川隆之、成宮杯、関西アマ選手権優勝 / 中部銀次郎、関西学生、朝日杯優勝、日本アマ選手権優勝、世界アマ選手権代表に選ばれる / 第一回関西学生秋季リーグ戦優勝、以降六連覇 / 信夫杯優勝、以降三連覇
- 1963 中部銀次郎、関西学生、朝日杯連覇、全日本学生、関西アマ選手権優勝
- 1964 中部銀次郎、成宮杯優勝し朝日杯、全日本学生連覇、日本アマ選手権に優勝
- 1965 森河伸治、日本アマ選手権に優勝
- 67-69 成宮杯、高島貞爾、浅川幸保、古門廣造、72-73、75 黒本洋一、木村憲明(2度)が優勝
- 72-74 関西学生に黒本洋一、木村憲明(2度)が三年連続優勝
- 1972 信夫杯に優勝し日本大学八連覇を阻止
- 2000 秋季2部リーグ優勝 / 入替戦1部復帰
- 2001 春、秋1部リーグ3位 / 全国大会出場を果たす
- 2002 春1部リーグ3位 / 全日本大学対抗11位



Pick up 高・中Topics

甲南・灘定期親善試合

約50年間続く、

学校同士の技の競い合い！

名物行事、灘甲戦

甲南高等学校・中学校では、毎年1回、近隣の灘中学校・高等学校と運動部同士が技を競い合う「甲南・灘定期親善試合、いわゆる「灘甲戦」を行っています。これは昭和28年に、私学、かつ6年制の学校として比較的校風の似ていた灘校と定期戦の提携を結んで以来、すでに50年近くも途切れることなく行ってきた伝統ある行事。阪神大震災のあった平成7年のみ中止。中学校では11、高等学校では12のクラブがそれぞれの練習の成果を発揮して灘チームと雌雄を決します。

これまでの戦績は、中学校で20勝24敗4分け、高等学校で35勝10敗3分け。結果だけ見ると、高校の部においては、甲南の圧勝のようにも思えますが、実際は毎年、お互いに手を抜かない真剣勝負が繰り広げられています。とくに3年生にとっては、クラブ引退前の最後の試合とあって、身をつけてきた技術と意地が激しくぶつかり合うことに。また、運動部だけでなく、応援団も一日中重い団旗を掲げ、声を張り上げて必死に応援。生徒たちはこうした交流戦によって、相手チームをただ敵とみなして戦うのではなく、切磋琢磨する仲間として全力で競い合うスポーツマンシップを学んでいます。



甲南体験NOW

よく学び、よく知り、よく考えよう

今年の灘甲戦の様子を教えてください。



試合の勝ち負け以上に、「ここで学べることは大きい」



福井 隆之先生 テニス部顧問

灘甲戦は、公式試合ではないものの、試合感覚を養う貴重なチャンス。例えば、開催場所は毎年交代でお互いの学校で行っており、今年も灘校開催でしたから、ピジターという緊張感のなかで試合を運ぶ集中力を養えました。また、普段の試合は1セットマッチなのですが、灘甲戦のときは3セットマッチが体験できるのも大きい。1セットでは何かのアクシデントで、そのまま試合が決まってしまうことも多いけれど、3セットなら、生徒は自分の本当の実力と向き合おうとができます。今年もそういった意味で貴重な体験を積んでくれたのではないのでしょうか。



谷本 達郎君 甲南高校2年生 テニス部主将
吉田 翔君 甲南高校2年生 テニス部副主将

インターハイ予戦のリベンジ今年はとくに負けられませんでした

テニス部の場合、灘甲戦の戦績はかなり優秀で、これまでのところ45勝2敗。ほとんど負けたことがないんですよ。ところが、この2・3年は灘高校のテニス部が伸びていて、5月のインターハイ予戦では残念ながらウチが敗れてしまったんです。だから今年の灘甲戦は、「もう負けられない」という気持ちで臨みました。団体戦の組み合わせも悪く、苦しい戦いになりましたが、そんな中でも何とか勝ちを収めることができ、自分たちの力を確かめるいい機会になったと思います。いま甲南高校は県大会ベスト4止まりが続いているけど、これをハネに全国をめざします。

体育祭・文化祭も世界との交流の場 言葉の違いを超え、大いに盛り上がった 恒例イベントをレポート

トゥレーヌ甲南学園では、地元、フランス・トゥレーヌ地方の方々と交流する機会を多く設けていますが、5月・6月に行っている恒例の催し、体育祭・文化祭もその一。健全な心身、団結力を育むだけでなく、異なる国の生徒同士が一つのイベントを成功させるために協力し、励まし合うことにより、実体験から国際理解を深める貴重なチャンスでもあります。ここでは、今年も大いに盛り上がった体育祭・文化祭を、率先して引っ張ってきた2人の生徒に語ってもらいました。

トゥレーヌ甲南学園高等部2年生
体育部長 原 芳嵩君

国際色豊かな体育祭 説明には苦労したけど、 みんなで応援し合ういい雰囲気

5月17日に行われた今回の体育祭には、フランスの方だけでなく、ドイツの生徒も参加してくれました。障害物競走では、フランス語でルールの説明をするのに手間取りましたが、障害物に不慣れなフランス人をみんなで応援し、とてもよい雰囲気になりました。最後の男女混合リレーでは、どのチームも夢中になり、盛り上がりました。最後の最後までみんながしっかりと仕事をしてくれましたので、体育祭全体がひきしまりました。



▲息の合った長縄跳び

トゥレーヌ甲南学園高等部2年生
文化部長 鈴木菜里子さん

文化祭大成功のカギは、 フランスの方々に対する生徒一人ひとりの思い

今回の文化祭は、6月の1・2日に開催。テーマである「日仏年間行事比較」では、学年ごとに3ヶ月ずつ担当してもらって小道具や絵を交えながらフランス人の方に分かりやすく説明しました。日本の文化を紹介するばかりでなく、ホームステイ先のファミリーの方によく質問されるトゥレーヌ甲南学園の寮や学校での過ごし方についても、発表を行いました。「甲南生の一日」と題して、実際に朝6時半に起床する場面から、夜寝るまでの一日の生活をビデオで撮影して放映しました。

道場での公演では、日本の伝統的な太鼓や居合を披露したり、学年の出し物では、どの学年も何らかの問題を抱えながら日々練習に励んだ結果、すばらしい公演となりました。

昨年、文化部長に就任してすぐ、今回の文化祭の企画を考えてきました。それは並大抵のことではなく、頭を悩ませることも多々ありました。しかし、執行部、実行委員の力強い支えのもと、常に向上心をもって取り組むことができました。生徒一人ひとりのフランスの方々に対する思いと目に見えぬ計り知れない力が文化祭の大成功の鍵となったに違いありません。



◀和太鼓部の力のこもった演技



▶満場の喝采を博した中等部のソーラン節

今回は、画家・経済ジャーナリスト、QOLコーディネーターなど、多彩な顔を持つ作家(クリエーター)、伴野久美子さんを取材。現在、繰り広げられている精力的な活動のきっかけから、その様子まで、さくばらんにお届けしました。



“自分の好きなこと”を、仕事にする

伴野 久美子さん 1978年経営学部卒業



8月7日に大阪HEP HALLで行われたステージ、HEP FIVE学習塾 現代を生きる古典シリーズ外国バージョンVol.04 夏休み 親と子のふれあい企画「関西人はラテン系? -ラテンのリズムで遊ぼう、踊ろう-」の出演者オルケスタ・アストロリコの皆さんと(後列右から3人目が伴野さん)。企画・制作・舞台美術を担当。
▶超ムツカシイといわれる楽器バンドネオン。ワークショップで1オクターブ完璧して喜ぶ徳元翔子ちゃん(8歳)。



私の名刺の裏の営業品目の総称は、カルチャー・ドライブ・フアシリター。「質の高い生活をおくる筋道をつける人」とでもいいでしょうか。

表現方法は二つ、一つは造形、もう一つは情報。前者は画家、能プロデューサー、QOLコーディネーター、後者は経済ジャーナリスト、メディアエディター、R&Dプロモーター。画家がなぜ能のことや子ども心の問題を扱うのか、ライターがなぜ電子出版や研究開発を手がけるのかと聞かれるのですが、自分の美学を追い求めるのが作家なので、自分をジャンル分けできないのです。能に触発されて作品が変化していきますし、作品を創るには体力と気力が必要なのです。それに、せつかく科学の発達した現代社会に生きているのだから、それを使わない手はない

でしょう...(笑)。

これらを総合した催としては3年前京都で行った「花と色」能、曼茶羅、茶室」があります。能舞台で新作の能を行い、茶室を私の作品で見立てて、ホールにて曼茶羅の講演をするというもので、テーマに合わせた香を焚き、日本酒の利き酒も入れて、五感全てにわたる演出でした。これは私の個展をこ覧になった方が、作品イメージが曼茶羅へと繋がるとおっしゃったので、曼茶羅を描かせていただいたことがあると申し上げると、留学生向けに話をしてほしいということになりました。

私の「自分の好きなことを仕事にしよう」という生き方は、甲南大学における二人の恩師、衣笠茂氏と竹林信二氏の、しなやかでたたかぬ感化によるところが大きいと思っています。

PROFILE

甲南大学経営学部四年のとき、部活(写真部)で制作した写真の作品をコンクールに出品、入選。審査員だった元永定正氏に卒業後師事。現代日本美術展等に入選、入賞。1980年から毎年個展を開催。大阪府立現代美術センター勤務を経て、1984年から(株)日本工業新聞社大阪本社編集局経済部所属。1999年退社、Office-Bang設立。

伴野さんの甲友録

- 河崎 晃一さん
1974年経済学部卒業
現代美術家
現在、芦屋市立美術博物館学芸課長
- 矢澤 英実さん
1974年経済学部卒業
現在、(株)ダルトン常務
- 大倉 源次郎さん
1981年文学部卒業
能楽小鼓方、大倉流第16世宗家

卒業生 TOPICS

甲南OBの著書をピックアップ!



メディアの万華鏡
塩路 忠彦 著
神戸新聞総合出版センター
¥1,300(税別)

私たちの生活に欠かせない存在となった情報通信(メディア)。その光り輝く映像と影に潜む虚像の両面を捉え、本質を描き出そうと試みた意欲作です。

塩路 忠彦さんプロフィール

1966年理学部卒業を経て、1968年社会科学部研究科経営学専攻を修了。その後、ソニー(株)に入社し、コンピュータSE、放送・業務用映像機器の事業戦略、総合企画、R&D戦略などの渉外を担当。2001年にソニーを退社後、(有)メディアリサーチ・アンド・コンサルティングを設立。代表取締役就任。

甲南フォーラム KONAN FORUM ダイジェスト



「心の危機と臨床の知」を探る 第4回公開シンポジウム開催

甲南大学学術フロントティア推進事業の主催による第4回公開シンポジウムが7月7日、本学にて開催されました。700名を超える聴衆を集め、「21世紀、心理療法とその意味」のテーマで、本学の横山博教授のもと7名のシンポジストと指定討論者が現代人の心の危機に対する臨床の知について議論を行いました。前半はシンポジストの角野善宏(大阪市立大)、ユング心理学(亀井敏彦は心理教育研究所・臨床心理学)、斧谷彌守(甲南大学・言語論)、羽下大信(甲南大学・精神分析)、中井久夫(甲南大学・精神医学)各氏がそれぞれの視点から発表を行い、後半は指定討論者として木村晴子(甲南大学・臨床心理学)、加藤清(隈病院・精神医学)の各氏に加わり、中井教授の提起した「transgression(踏み越え)」というテーマをめぐる、否応なしにさまざまな境界を踏み越えざるを得ない21世紀において、心理療法はどのようなべきかについての活発な意見が交わされました。

第130回現代講座は東ちづる氏 「泣いて笑ってボランテニア珍道中」

各界で活躍している著名な方をお招きし、開催している現代講座。5月18日に行われた130回目の講演では女優の東ちづる氏をお越しい

の方々も、ときには声をあげて笑い、ときには真剣な面もちで、最後まで興味深く耳を傾けておられました。

文化庁長官河合隼雄氏を招き、 異文化理解の本質に迫る

あらゆる場面で地球規模の視点が必要とされているいま、私たちはどうやって異文化理解を深めていけばいいのでしょうか。6月15日、カウンセリングセンター・学生相談室には文化庁長官であり、心理療法で著名な研究者でもある河合隼雄氏を招き、「異文化を学ぶとは」をテーマに講演会を行いました。ここ数年、ネイティブアメリカンのナバホのメディスン(呪医)などを訪ねてこられた河合氏。異文化を学ぶ面白さ、難しさ、奥深さ、そして、そもそもグローバルゼーションとは何かなどについて自身の体験を交えてわかりやすくお聞かせいただきました。



キャンパスの活気が最高潮に！ 第38回摂津祭を開催

11月20日から25日までの5日間、第38回摂津祭を行います。演劇部、能楽研究部などによる演劇祭、合気道部、空手部、剣道部などによる演武祭をはじめ、学生たちのパワー溢れる催しがご覧いただけます。ぜひお誘い合わせのうえお越してください。



甲南大学の教員が執筆した
新刊レビュー

独禁法犯罪の研究
経済犯罪の研究 第二巻
神山 敏雄 著
● 法学部教授
成文堂 ¥7,000(税別)

国際ビジネス形態と
中国の経済発展
杉田 俊明 著
● 経営学部助教授
中央経済社 ¥2,900(税別)



はじめての統計
得津 一郎 著
● EBA高等教育研究所教授
有斐閣ブックス ¥2,300(税別)

さながら祭りの日のように
西田 英樹 著
● 名誉教授
創元社 ¥6,000(税別)



デザインエスト + お知らせ

あなたの参加が ”ホームカミングデー”をサポート 盛り上げよう！舞イ昇れ！「甲南フェスタ」！

「オール甲南の集い」実施委員の募集

卒業生、現役学生・生徒とそのご父母を中心にして、甲南関係者が一同に集い、お互いの絆を深め合う年に二度の大イベント「オール甲南の集い」。今秋から、来年4月の第3回開催に向け「実施委員会」がスタートします。これまでの経験を生かし、今回は甲南関係者の一人ひとりが、積極的にこのイベントに関わってもらえる全員参加型の「オール甲南の集い」をめざします。

参加者が主体となつて、「甲南同士」が協力して盛り上げ、舞い昇る、楽しく、健康的で、アットホームなイベントづくりにより、あなたのお手でお知恵を拝借。

【日時】2003年4月20日(日)
【テーマ】ロイヤルレッドの旗のもとに(二飯)

～卒業生、学生・父母との一体感の共有～

【場所】甲南大学
甲友会館(メイン会場)
記念品の贈呈
講演会または演奏会
長谷川三郎作品展覧会
福引き抽選会

【内容】甲友会館(メイン会場)
講演会または演奏会
長谷川三郎作品展覧会
福引き抽選会
学生発表・クリクラシム・アモロソなど)
講堂兼体育館
対学習院大学定期戦開会式
バスケットボール部定期戦
その他

模擬店・キッズランド、お茶会など
【オール甲南の集い】実施委員の応募について
募集人数 約20名
応募資格 「オール甲南の集い」開催に「肌親しい」いただける方ならどなたでも可。
実施委員として数回開催される
委員会に出席願います。

応募方法 氏名・年齢・住所・電話番号・自己PR
等をご記入の上、ハガキまたは電子
メールにて応募ください。
〒658-8501
神戸市東灘区岡本8-9-1
甲南学園 甲友室 宛
e-mail koyu@adm.konan-u.ac.jp

誌上で
激論

「これってどう思いますか？」 もし、自分が企業の面接官なら、 採用したいと思う学生

このコーナーは、読者の皆さまから寄せられた
お便りによって構成していきます。今回は、就
職難を乗り越えられる、理想的な学生像につ
いてご意見をいただきました。

「社会常識を身につける」といっつのは言葉にする
と当たり前かもしれないが、挨拶や時間厳守を
実行できる人が少ないのは事実。私なら社会の
ルールに従いながらも、自分の個性を伸ばすこと
ができる人を採用したい。(法学部 昭和五十七
年卒・男)

顔を上げ、大きい声で話す学生は好感が持てま
す。逆にささやくような声を聞く、自信のな
さが伝わってきて、しどろもどろ不安に感じてしま
います。大きい声を出さないと無理をする必要はな
いと思いますが、普通に相手と会話をすることが
必要だと感じています。(文学部・
平成九年卒・女)

大学時代に明確な目的を持って学んだ人。学ぶ姿
勢が身につけている学生なら、絶えず知識の向上
が必要なビジネス社会でもきつと活躍できるはず
だ。(理学部・平成元年卒・男)

企業が自分がやりたいことを明確に話してくれ
る学生は魅力的だと思います。実際にできるでき
ないの判断は別にして、本当に「この会社に入りた
いか否かが現れるでしょうから。」(経営学部・昭
和三十九年卒・男)

(法学部・昭和五十五年卒・女)

「甲南21クリエイティブプラン」採択

昨年、開学50周年の記念事業としてはいま
た「甲南21クリエイティブプラン」。これは、21
世紀の社会に貢献する学生の自主活動を促進
するため、大学が広くプランを募集し、優れた
ものに対して経済面などからバックアップを行
うという取り組みです。

本年度は、「学生ベンチャー」による育成支援
事業(経営学部3年 日野 順之さん 他6
名)、「甲南大学における循環型コミュニティの
創造とパートナーシップ」(文学部4年 松田拓
也さん 他14名)、「人と馬のふれあい教室」(経
済学部4年 木本 尚志さん 他5名)が採択さ
れ、6月29日の教育懇談会において、吉沢英成
学長から激励を込めた表彰が行われました。



ライフサイエンスの市民フォーラム

【日時】10月15日(火)午後6時～

【場所】甲南大学平生記念ゼミナールハウス

【講師・演題】

岡田芳男教授(神戸学院大学薬学部)

「フット」はどんなもの」

南野重人部長(国立循環器病センター研究所薬理部)

「身体にある「フット」を知る・見る」

藤井信孝教授(京都大学大学院薬学研究所)

「フットから薬をつくる」

【主催】日本フット学会 【共催】甲南大学

理工学部フォーラム

【日時】11月16日(土)午後1時30分～

【場所】5-1 講義室

【講師・演題】

上田 実助教(慶應義塾大学理工学部)

「眠る植物の不思議と体内時計」ターウィーン以来
の謎に挑んで」

佐藤文雄教授(甲南大学理学部)

「宇宙は手づくりか? 相対性原理の綻びを探す」

実際に面接官を経験した感想から、気持ちと言
葉にして「ありがとう」を言えるような、素直な
学生に好感を持ちます。(経済学部 昭和三十四
年卒・男)

自己主張できることに加え、周りの人たちをま
める能力のある人が理想的。自分でぐいぐい進め
る人は確かに目立つが、周りを説得し味方につけ
る素質がないといふこと。(経営学部 平成七年
卒・男)

他の人より何かひとつでも勝るものを持っている
学生。仕事では何度かなくつまづくことがあり
ますが、自分だけができること、があれば自信
を取り戻せるはず。私はそうやって壁を乗り越
え、定年まで勤務することができました。(法学
部 昭和三十九年卒・男)

誌面作りに対する「意見」の感想

特集の「自分らしい就職」を読み、甲南大学が行
っている就職指導とその熱意が伝わってきました。
心強く感じています。(在学生の父)

いまの学生が取り組んでいる研究内容や、教授
の新たな研究課題・文学的解釈などがわかる記
事を希望いたします。(文学部・昭和五十九年
卒・女)

クニツツながリレーションが毎回楽しみ。私にと
して、大学生活一番の思い出であるクラブ活動を懐
かしんでいます。(経済学部・平成二年卒・男)

私もさるころながら、キャンパス徹底ガイドなど、
大学受験を目前にした息子の参考に役立ってい
ますよ。(経営学部 昭和五十六年卒・女)

次回テーマ
今回は本誌でも特集した、大学教育のあり方についてご意見をいただきたいと思
います。そこでテーマは、「大学教育に望むこと」
。こんな講座があれば参加してみたい
といった具体的な内容から、こういう理念
を持って教育を行ってほしいなどの大きな
方向性まで、どんな内容でも結構です。
ぜひご考えてください。

編集後記
さわやかな季節となり、これまで出かける
のがあつた方も、外出される機会
が増えたのではないのでしょうか。
甲南大学では、社会人の方に向けた公開
講座を秋期も開催しております。また、キャン
パスが一年で最もにぎわう「大学祭」・「摂津
祭」が11月20日から開催されます。機会が
あれば、どうぞ皆さまもお遊びください。慣
れ親しんだキャンパスを懐かしむ、あるいは
ご子息・ご息女のキャンパスライフを思い描
く意味でも、貴重な一日になることと思
います。

また、都合がつけられない方のためにも、
本誌では、キャンパスの様子を伝える記事を
充実させていく予定です。ご意見・ご感想な
どございましたら、どしどしお寄せください。
お待ちしております。

次号予告(2002年12月発行予定)
NETWORK KONAN
つながる!甲南ネットワーク
集まれ!
甲友ファミリー

甲南Today No.11
発行日/2002年10月1日
発行/甲南学園広報室
〒658 8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1
TEL(078)431 4341(代)
印刷/大日本印刷株式会社

10月	11月	12月
就職カレンダ 第2回就職ガイダンス 1日、2日、3日、4日 自己分析講座 7日、8日、10日、11日 就職模擬テスト(適性) 15日、18日 SPI/29日(11月1日) 企業分析講座 21日、22日、24日、25日	エントリーシート対策講座(学部別) (5日、7日、8日、11日) 公務員ガイダンス(中包) SPI模試(フォロ)講座 12月14日、15日、18日	第3回就職ガイダンス 2日、3日、4日、5日、6日 登録票の提出(11月13日) OB・OG懇談会(業種別)(14日) 公務員・教員合格報告会(中包) 就職模擬テスト(17日) 面接マナー講座 9日、10日、12日、13日

10月	11月	12月
EVENT SCHEDULE スポーツ推薦入試、甲南高校・トウイ 又甲南学園高等部基礎学力試験 5日 大学教育懇談会 13日 ライフサイエンスの市民フォーラム 15日 経済学部開設50周年記念講演会 21日 経営学部高等学校商学科推薦入試 EBA総合コースA方式 小論文・B方式 一次入試、編入試験 社会 人入試(経・法・営)(2日) オープンキャンパス 9日 ロースクールシボジウム 9日 EBA総合コースA方式 面接入試 (9日、10日) 帰国子女入試 指定校推薦入試(理工・EBA総合)コースB方式 二次入試 16日 1・2年次父母就職説明会 16日 理工学部フォーラム 16日 第38回摂津祭 20日、24日 第47回甲南大学対学習院大学運動 競技総合定期戦開会式 14日 体育会リーダーズキャンプ(中包) 講義一旦終了(21日) 冬期休業 24日、2003年1月6日	11月	12月